

IT時事ネタキーワード「これが気になる！」(第39回)

PayPay祭り再び？ 乗り遅れ組へスマホ決済

2019.03.18

昨年末に行われた「PayPay」の“100億円あげちゃうキャンペーン”。内容は、決済の20%を還元、さらに抽選で全額還元(上限10万円まで)だった。期間は4カ月に設定されていたものの、還元額が100億円に達したら終了とされていたため、わずか10日でキャンペーンが終了した。

なぜこんな事態になったかというと、還元額の上限は1カ月5万円だが、1回当たりの上限が設けられていなかったからだ。つまり1回で5万円という高額還元が可能。この点に目を付けたユーザーがこぞって利用し、あっという間に上限に達したというわけだ。

これに学んでか、2月12日から始まった100億円キャンペーン第2弾は、1回の支払いにおける還元額の上限を1000円相当に、還元額は期間中5万円相当までと変更された。さらに、支払い方法により還元率が異なるよう変更。「くじ」は当選率が引き上げられた一方、1回当たりの当選額が最大1000円相当に変更されるなど、全体的に細かい調整がなされた。

第1弾に比べて「渋くなった」と言われたが、使ってみて思うに、5000円以下の細かい買い物がおトクになる仕組みゆえ、日常的なコンビニやドラッグストアの買い物に、「小さな幸せ」を感じ、またPayPayで買い物したくなって、PayPay対応のお店に向かってしまう。キャンペーンが長く持ちそうなのと、スマホ1つでOK、お金を下ろす手間いらず、履歴や残高がすぐ分かるなど、スマホ決済の利点をその都度実感させられて、これは一定の効果がありそう、と筆者は考えている。



第2弾キャンペーンで利用した筆者の「PayPay」アプリの画面。2000円ほど買い物した際、1000円が当たった

他のサービス動向。乗り遅れた人の狙い目は… 続きを読む